

全体会合 第二部

にじゅうまるプロジェクト 登録事業団体の発表



CEPAジャパン
佐藤健一

CEPA
JAPAN

もっと身近に、生物多様性。



生物多様性を守るために、
私たちができること。

5 ACTIONS

5 actions to save biodiversity.

いま、「生物多様性」が危ない！

- 1 絶滅の危機や、絶滅が危ないが、絶滅する恐れのある生物を保護する。
- 2 人間が生活する環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。
- 3 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。
- 4 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。
- 5 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

じゃあ、どうすればいいの？

生物多様性を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

5つのアクション

1. 絶滅の危機や、絶滅が危ないが、絶滅する恐れのある生物を保護する。

2. 人間が生活する環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

3. 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

4. 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

5. 自然環境を、自然と共生できるように、自然と共生できるようにする。

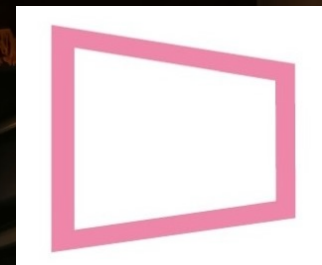
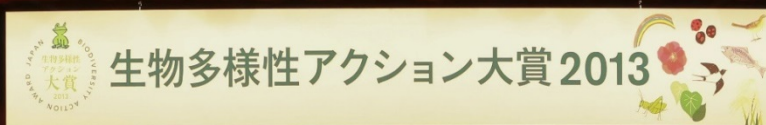


生物多様性国家戦略 2012-2020 ～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～

平成 24 年 9 月 28 日

ことも役割の一つです。このように市民を中核に多様な主体が前述のような役割を果たすためには、一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることが求められます。例えば、旬のものを「味わう」、自然や生きものに「ふれる」、自然の素晴らしさを「伝える」、保全活動に「参加する」、環境配慮商品を「買う」といった、生物多様性を守るための「My 行動宣言 5つのアクション」(国連生物多様性の10年日本委員会)を日常の暮らしの中で実行に移していくことが重要です。

また、高齢者は、これまでの経験等を活かして、人と自然とが共生していた姿や生活の様子、自然災害の歴史や経験、生物多様性に育まれた伝統的な知識や智慧、文化、遊び、風習、技術を子どもたちなどに分かりやすく伝えることが期待されています。定年退職などで職を離れた中高年層は、定年帰郷への参画や社会での豊かな経験、知識、技術を活か



優秀賞
ふれよう

優秀賞
まもろう

大賞
たべよう

セブン
イレブン

Green
TV

優秀賞
つたえよう

優秀賞
えらぼう

復興
支援

Green
TV



❁課題

- 様々なシーンで普及活動
- 市民レベルの事例収集
- アーカイブの充実(映像..)
- 海外への発信
- 幅広い生活関係協賛者と
- 提言** ライフスタイルとして「もっと身近に生物多様性」を日常化にするには..。

宣言する
なら、
いまでしょ
う...?!

2011-2020 国連生物多様性の10年日本委員会

ねんにほんいんかい
こくれんせいぶつたようせい
国連生物多様性の10年日本委員会

せいぶつたようせい まも わたし
生物多様性を守るために、私たちにできるアクション!

マイ 行動宣言

生物多様性とは、たくさんの生きものがつながりあって暮らしていること。
生物多様性を守るためには、まずは暮らしの中で、生きものとのつながり
を感じる事が大切。水や空気はもちろん、食べものや着るものの材料、
木材、薬の原料など、いろいろな生きもののおかげで、私たちは生きてい
ます。

次の5つの中からあなたにできることを選んで「MY 行動宣言」しましょう。
生物多様性の恵みを受け続けられるように、一人ひとりが「MY 行動宣言」
をして、今日から行動しましょう!

チェック
してね!

Act 1 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。 ☐

Act 2 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。 ☐

Act 3 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。 ☐

Act 4 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。 ☐

Act 5 エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。 ☐

●お住まいの都道府県

●性別 ☐ 男 ☐ 女

●年齢 ☐ 10代未満 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代
☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上

A pink trapezoidal frame, wider on the left side, containing the Japanese text '終わり' (End).

終わり

CEPA
JAPAN

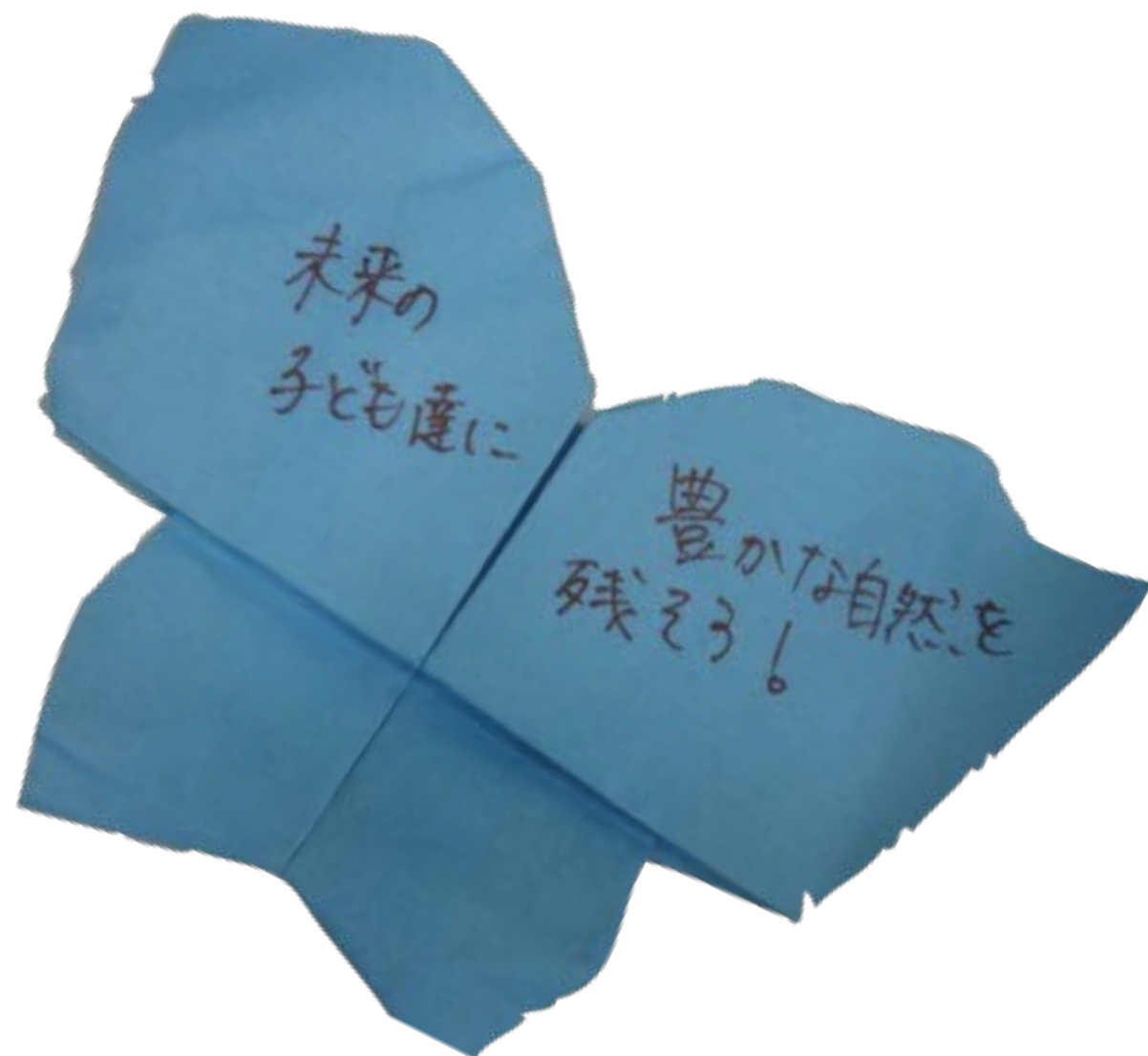
もっと身近に、生物多様性。

(株) リゾートトラスト

Life in harmony, into the future

いのちの共生を、未来に。







TOKYO 2020



OMOTENASHI (おもてなし)

×

ORIGAMI (折り紙)

「にじゅうまるプロジェクト」のゴール、2020年は「東京オリンピック」開催の年でもあります。そして「折り紙」は、日本の伝統文化であり、世界に誇る伝統美「ORIGAMI」でもあります。2020年、世界中が注目スポーツ祭典「オリンピック」に合わせ、日本から世界に向けて「自然環境保護」や「生物の多様性保護」を強力に発信するため、例えば、「OMOTENASHI(おもてなし)」×「ORIGAMI(折り紙)」をコンセプトとし、オリンピック気運の盛り上げに合わせてスポーツ選手から折り紙とメッセージを取得する・五輪マークの入ったオフィシャル折り紙を作成して全国の子供達に折ってもらう等、我々の活動をもっと大きく、強く発信する施策を打つべく、2020年開催の東京オリンピックとの関連づけた企画・施策を考案するのはいかがでしょうか。

『田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト』 Rice-paddy Biodiversity Enhancement Decade 2011-13年の活動と2010年に向けての提言



NPO法人ラムサール・ネットワーク日本
共同代表 呉地 正行



田んぼから始まる！生きもののにぎわい



田んぼ10年プロジェクト・2011-13年の活動

- 1) C B D C O P 10で、N G Oが政府に働きかけて勝ち取った2つの決議
 - A) 「国連生物多様性の10年」 (X/8)
 - B) 「水田決議 (X/34)」 (農業生物多様性)
 : ラムサール水田決議X. 31を全て取り込む)
- 2) 田んぼ10年プロジェクトの立ち上げ
 - A) 2つの決議と愛知目標を具体化するための枠組みをめざす
 - B) にじゅうまるプロジェクト参加
 - C) 行動計画策定のためのワークショップ
 - D) 行動計画策定
 - E) キックオフ集会 (小山市) (2013年2月)
 - F) 水田決議円卓会議準備会定期開催 (農水省・環境省・国交省・ラムネットJ)
- 3) 国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業への認定
- 4) 第1回交流会開催 (登米市) (2013年8月)
- 5) 生物多様性地域戦略策定に参加 (佐度市、登米市、宮城県)
- 6) ロゴマークの作成
- 7) 各地での講演・普及活動
- 8) 田んぼ10年メーリングリスト開設





NGO Initiative for UN
Decade of Biodiversity

国連生物多様性の10年 行動計画 (2011-2020)

**水田決議
(生物多様性向上)**
(Ramsar COP10
+ CBD COP10)

田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト



**にじゅうまるプロジェクト
愛知目標**



(生物多様性回復)
18の水田目標 / 20の愛知目標

全国

地域

集落・個人

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

[〇〇田んぼ]の生物多様性向上10年プロジェクト

様々な分野の人々へ、
「田んぼ10年プロジェクト」計画への参加呼びかけ

田んぼの生物多様性
向上に関わる長期活
動を支援・主流化する
ための受け皿

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトとは

Rice-paddy Biodiversity Enhancement Decade

田んぼの10年参加者

田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト 実施の手引き

みんなの力で
日本の田んぼに
生きもののにぎわいを
取り戻そう！

「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト交流会 in 登米」配布資料

現場で進める

水田の生物多様性の維持と向上

すぐにもできる具体策

水田目標 1、7、8

(愛知目標 1、7、8 に該当)

憩いの森・HACHIGATA

桐谷主治

千葉孝志

日本雁を保護する会

NPO法人蕪栗ぬまっくらぶ

浅沼栄二

NPO法人バードリサーチ

社団法人アーバンネイチャー・マネジメントサービス

九重ふるさと自然学校

NPO法人田んぼ

株式会社今野農園

NPO法人 見沼保全じゃぶじゃぶラボ

佐渡市

時松和弘

企業組合 里と生きものネットワーク

農業組合法人 トキの夢営農組合

株式会社野田自然共生ファーム

安藤 満(日本農村医学研究所客員研究員)

小野寺 徹(旬の野菜 爽菜農園)

登米市 産業経済部 農産園芸畜産課

豊岡市 環境交流会

わたらせ未来基金

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

猿山弘子

浅沼信治(日本農村医学研究所 客員研究員)

渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会

小山の環境を考える市民の会

水田目標
(愛知目標)

目標達成
のための
個別行動

登録

NPO法人オリザネット

NPO法人民間稲作研究所

一般社団法人グリーンオイルプロジェクト

小山市

稲葉忠次

伊豆沼から全国へ超元気を発信する協議会、

有限会社伊豆沼農産

公益財団法人 日本生態系協会

青木 新

NPO法人自然史データバンクアニマnet

入郷棚田保全協議会

農と生きもの研究所

蕪栗米生産組合

特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター

有限会社首都防災

堤 明

嶋田久夫

認定NPO法人 矢塚の自然と歴史の会

夏原由博

宇都宮市の市民団体

大崎市の農家

川口市の企業

亀田 聡

こども自然クラブ

埼玉県生態系保護協会 川口支部

有限会社ゆうま ぶどうの樹 ほっこり農園

奈良県立御所実業高等学校環境緑地科

「生物多様性の保全」研究班

加賀市

大潟村

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト
行動計画
2013

田んぼの生物多様性向上の活動全体を支援:

諸活動の実施と継続・関係者との交流・目標達成・田んぼの主流化



にじゅうまるプロジェクトの今後に向けて 田んぼ10年プロジェクト⇒2020: 宣言と提言



- ・ 愛知目標を軸とし、「国連生物多様性の10年」のリーディングプロジェクトをめざす
- ・ 賛同者の輪を広げ、目標の達成と、田んぼの生物多様性の主流化をめざす。
- ・ 生物多様性条約を活かした運動体として、全国各地の活動のモデルとなることをめざす。
 - － 1. 河川、干潟、海洋、山地、里山などのハビタットごとに、愛知目標達成に向けた具体的な活動を進めるよう、にじゅうまるプロジェクトを通じて広く呼びかける。
 - － 2. 田んぼ10年プロジェクトの水田目標のように、愛知目標に即した河川目標、干潟目標、海洋目標などを設定し、現場の活動を愛知目標と結びつけた行動計画を策定し、2020年に向かって運動を展開するよう働きかける。



ご清聴ありがとうございました



田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

- <http://www.ramnet-j.org/tambo10/>

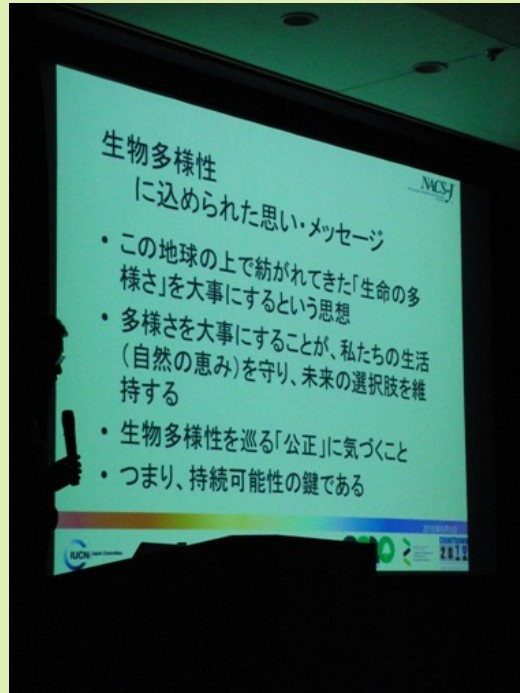
皆様のご参加をお待ちしています。

生物多様性かんさい

関西のこの3年+α



生物多様性条約の再勉強 2010年6月～



学習会

「わかったつもりを問い直す—生物多様性って何？」

— 生物多様性かんさい —

関西から考える
‘企業と生物多様性’研究会



関西人だからできる7つのエーコと
(生物多様性のために)

関西のこの3年+α

2010年11月21日

速報COP10でなにがおきていたのか、これからの取り組みに向けて

2011年11月19日

あなたなら何ができる？どうする？—愛知ターゲットをカンガエル

2012年11月11日

(第5回生物多様性協働フォーラム

グリーンビジネスでつなげる「都市生活」と「生物多様性」)

2013年1月20日

【最新動向探究！】生物多様性2013～Rio+20からCOP11、そして・・・？

2013年12月21日

(第7回生物多様性協働フォーラム「いのちにぎやか、文化ゆたか」)



よく勉強しました！？

⇒分科会

「文化と生物多様性」

にもインプットします



— 生物多様性かんさい —

提言

提言1.

登録後のステップ2、3、・・・づくり

提言2.

勉強会、シンポジウム卒業～！？

提言3.

オシャレな女性に似合うプロジェクトの強化を！

四国生物多様性ネットワーク

第1回四国生物多様性会議 2012年2月18日愛媛県松山市にて開催



第2回四国生物多様性会議 2012年12月15日高知県高知市にて開催



第3回四国生物多様性会議 2013年12月8日香川県高松市にて開催



地球上には、何種類
か？

1 1000万種、2 3000万種、3 1億種

全部正解、または、分かってない

3 回の四国 4 県広域会議で見えてきたもの

- ・県境を越えたネットワークの重要性と使命
- ・地域や領域を超えたつながりをどう生かすか
- ・「生物多様性の主流化」はとても大事
- ・生態系はもちろん地域性・県民性・社会構造も含めた違いをきちんと認識せねばならない
- ・四国内での共通課題は多く、それは国内の地域にも当てはまるが、解決策は多種多様なので・・・規格品では難しい
- ・課題の根源は生物多様性の課題と深く関連しているが・・・同時に人の暮らしとも強く関連している

メッセージ

- ・県境を越え、地域や領域を超えた「つながり」を常に維持すべき
- ・「生物多様性の主流化」の為の活動は広く浅く継続すべき
- ・未来のイメージを組み立てる為には、生きものだけではなく人社会の様々な分野の調査も必要である。課題の整理だけでは不十分
- ・地域を支えているのは「生物多様性」と「人」の両方である。この両輪がうまく回らないと・・・崩壊が起きる
- ・地域の課題は地方の課題であると同時に都市の課題である

生物多様性わかものネットワーク



出前講演



「暮らし」を観察する

- ・ 自分たちの暮らしの中のいきものを観る。
- ・ その生きものの暮らしを観察する。



＝生物多様性？

HOPEとは...
四国の青年をネットワーク
する団体です。環境・
国際・教育をテーマに
系イベントを行って
会費も募集して
事務局





生物多様性わかもの会議(わ会議)





国際会議





にじゅうまるへのメッセージ

若い世代の活動のために、

地域団体と地域学生の

つながりの強化をお願いします。

- ・フィールドの情報
- ・共同できる活動の積極的な紹介 など

「若者」から生物多様性を盛り上げます。
ぜひとも、ご協力ください。



奈良県御所実業高校



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

奈良県立御所実業高等学校環境緑地科
「生物多様性の保全」研究班

生物多様性ならプロジェクト

身近な新発見を楽しもう！

I 貴重種の域外保全(主たる連携先: 奈良県くらし創造部景観環境局自然環境課)



オグルマ(奈良県絶滅危惧種)
「一節挿し」よりも「**二節挿し**」の方がよい。

ヒメユリ(奈良県絶滅寸前種)
御所市産のものを栽培中。

レンゲツツジ(全国10数都県でレッドデータに記載)
東京都、神奈川県、香川県の自然保護関連団体に**挿し木の新技术を提供中。**

II 郷土種の系統保存(主たる連携先: 奈良県農林部農業総合センター)



御所柿(完全甘柿のルーツ)
より効率の良い苗の生産技術の開発。

シコクビエ(紀伊山地系統)
奈良県天川村農業委員会に栽培技術の提供と新メニュー「**弘法粥**」の提案中。
シコクビエは弘法大師が天川村に伝えたと言われており、別名を**弘法稗**といわれている。
「弘法大師の道プロジェクト」を勝手に応援。

守られてるから、守りたい。この星すべての生命。

 にじゅうまる プロジェクト



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

奈良県立御所実業高等学校環境緑地科

「生物多様性の保全」研究班

生物多様性ならプロジェクト

身近な新発見を楽しもう！

Ⅲ フィールドミュージアム(主たる連携先: 橿原市昆虫館)







橿原市昆虫館ボランティア
「虫いっぱい」の里山づくり隊」との
協働

通常^の里山整備に加え、観察路を整備、**樹名板**を取り付けたり、**ガイドマップ**を作成している。

Ⅳ 里山クラフト体験(主たる連携先: 橿原市昆虫館)







つるかご編み(研究班の伝統技)

里山整備で刈り取ったつるを利用。私たちが先生役となって頑張っている。

笹から紙をつくろう(笹紙漉き)

里山整備の時に下刈りで刈り取った笹の有効利用して、紙づくりに取り組んでいる。また、笹紙漉きを子どもたちに体験してもらっている。

守られてるから、守りたい。この星すべての生命。

にじゅうまるプロジェクト





この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

奈良県立御所実業高等学校環境緑地科
「生物多様性の保全」研究班

生物多様性ならプロジェクト

身近な新発見を楽しもう！

にじゅうまるプロジェクトに登録して

- ・ 他の団体の取組を知るきっかけ
- ・ 「地球と生命（いのち）の20の約束」で紹介

登録団体どうしの直接的な交流を増やしたい。

国連生物多様性の10年日本委員会より事業認定を受けて

- ・ 第2回生物多様性全国ミーティングで事例発表
- ・ 説明ポスター・チラシでの紹介

各団体の取組がもっと学校での環境教育に活かせるような枠組みになれば…。

新聞報道が増加！

取組に自信をもつ。より熱心に粘り強く取り組む姿勢が生まれる。

- ・ 自然科学系のコンテストで成果を上げる。
- ・ 県内での発表依頼が増える（昨春「生物多様性なら戦略」が策定）。

守られてから、守りたい。この星すべての生命。

20にじゅうまるプロジェクト

國立環境研究所



鎮守の森



ため池



ふゆみずたんぼ

提供：呉地正行



シマフクロウのための野
鳥保護区

提供：日本野鳥の会





Program of the Event

Session Chair:

Ms. Sue Station (Equilibrium Research)

OPENING REMARKS by Japan Committee for IUCN

KEYNOTE

"PPA Futures: Assessing and advancing the role of private protected areas"

Ms. Sue Station

Equilibrium Research



Mr. Nigel Dudley

Equilibrium Research



REPORT 1

"Tidal flats and salt marshes produced newly after 3.11 disaster"

Dr. Takao Suzuki

Graduate School of Life Sciences, Tohoku University



"About the PPAs initiative in Japan"

Mr. Teppei Dobbe

Japan Committee for IUCN



REPORT 2

"Private Protected Areas in Republic of KOREA"

Dr. Hag Young Heo

Personality Department, Korean National Park Service



REPORT 3

"Private Protected Areas information in the World Database on Protected Areas (WDPA)"

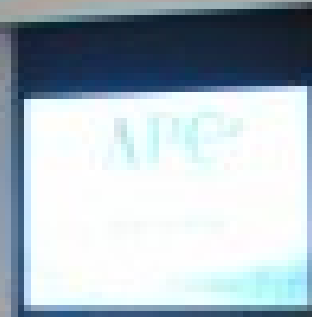
Ms. Naomi Kingston

IASP/IFOM



DISCUSSION

The way to strengthen and promote PPAs in the future



民間保護地域検討会の今後

H26年度より本格始動

- ◆世界基準に沿った定義の策定、把握、評価
- ◆愛知目標達成につながる活動として位置付け
- ◆民間保護活動の推進につながる仕組みの提案



**市民がまもる地域を、
みんなでまもる地域へ**